

第3・4学年 国語科学習指導案

日 時 令和元年11月14日(木)5校時
児 童 第3学年 男3名 女4名 計7名
第4学年 男4名 女2名 計6名

<第3学年>

1 単元名 はたらく犬について調べよう

教材名 「もうどう犬の訓練」

2 児童の実態

児童は、2年下の「ビーバーの大工事」では、大事な言葉を落とさずに読み、文章の中から必要な情報だけを選び出す学習を行っている。また、3年6月には「自然のかくし絵」の学習を通して中心となる語句や文を探して、形式段落の内容をとらえる学習を行っている。しかし、中心となる語句の見つけ方が分からない児童や見つけられても文章として表現できる力が身に付いていない。

この単元では、これまでの学習をいかしながら中心となる語句や文を探して、さらに要約する力を身に付けさせていきたい。

3 身に付けさせたい力と言語活動の構想

【身に付けさせたい力】

目的を意識して、中心となる語句や文を見つけて要約すること。 (C 読むこと(1)ウ)

【本単元の言語活動】

働く犬を他の本で調べ「はたらく犬リーフレット」を作成する。 (「C 読むこと」(2)言語活動例ア)

【言語活動の特徴】

本単元の言語活動として、「C 読むこと」の言語活動例「ア記録や報告の文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動」を具体化し、「はたらく犬 リーフレット」の作成を位置づけた。

「はたらく犬 リーフレット」を作成して、図書祭りで全校に紹介したり、図書室にコーナーを設けてもらったりすることにより、働く犬の説明文を主体的に読みながら、目的に応じた要約の力を身に付けさせていきたい。

【複式学習を行う上でつけなければならない力】

- ア 本時の学習内容や間接指導の学習の仕方が分かる。
- イ 自力解決の中で自分の考えを持つことができる。
- ウ ペア学習で相手の考えに質問や感想を持つ。
- エ 友達の発表をよく聞いてより良いものを選ぶ。

<第4学年>

1 単元名 暮らしの中にある「和」と「洋」を調べよう

教材名 「暮らしの中の和と洋」

2 児童の実態

児童は3年下の「もうどう犬の訓練」では、中心となる語句や文を見つけながら、書かれている内容を要約する活動を行っている。また、4年6月に「ヤドカリとインゴインチャク」の学習を通して、意味段落ごとに要約する学習を行っている。しかし、意味段落を正しくとらえられない児童や、中心となる部分を見つけたり要約したりする力が十分身につけているとは言えない。

この単元では和と洋の対比構造を読み取り、接続する語句を使いながら引用や要約する力を身に付けさせていきたい。

3 身に付けさせたい力と言語活動の構想

【身につけさせたい力】

目的を意識して、中心となる語句や文を見つけて要約すること。 (C 読むこと(1)ウ)

【本単元の言語活動】

和と洋を他の本で調べ「暮らしの中の和と洋ブック」を作成する。 (「C 読むこと」(2)言語活動例ア)

【言語活動の特徴】

本単元の言語活動として、「C 読むこと」の言語活動例「ア記録や報告の文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動」を具体化し、「暮らしの中の和と洋ブック」を作成することを位置づけた。

「暮らしの中の和と洋ブック」を作成して、図書祭りで全校に紹介したり、図書室にコーナーを設けてもらったりすることにより、和と洋に関する説明文を主体的に読みながら、目的に応じて引用したり要約したりする力を身に付けさせていきたい。

【複式学習を行う上でつけなければならない力】

- ア 本時の学習内容や間接指導の学習の仕方が分かる。
- イ 自力解決の中で自分の考えを持つことができる。

4 指導にあたって

本教材は、盲導犬の訓練について、盲導犬の定義や役割、訓練の段階を、順序立てて説明した文章である。まとまりが、はっきりしているため、話題提示、盲導犬の訓練について説明、まとめというように「始め・中・終わり」という文章構成が分かりやすくなっている。また、それぞれの訓練の内容や様子等具体的な部分が多いため、中心となる語句や文を見つけやすく、要約をはじめて学習する児童に適した教材文である。

第一次の導入では、「働く犬」クイズを行い、社会で活躍する犬が多いことに関心を持たせたい。「はたらく犬リーフレット」のモデルを見せることで学習課題を明確にし、学習の流れをつかませるようにしたい。

第二次では「始め・中・終わり」という説明文の構成であることをとらえさせ、さらに中には4つの意味段落があることをとらえさせる。「自然のかくし絵」の時の文章構成と比べさせる。「自然のかくし絵」の時は段落ごとに中心語句をみつけてまとめることを学習したが、今回は段落をまたがって中心語句を見つけて意味段落ごとに要約していく学習となる。

本時では、要約するために中心となる語句や文の見つけ方や、それらを使って要約するためのポイントをおさえたい。「自然のかくし絵」の時に「問い」に対して「答え」を見つけた学習を活かし本時では Q&A の形式にして、Q の「問い」に対して、A の「答え」を探してワークシートにまとめることで要約の学習へとつなげていきたい。また、この形式にすることでリーフレットを作成しやすくしていきたい。

第三次では、第二次までに身に付けてきた要約の力をいかして、はたらく犬シリーズの本から、大事な言葉や文を選び Q&A 形式で要約したり、内容のまとまりごとにレイアウトを考えたりしながらリーフレットを作成する。できあがったものを友達と読み合ったり問題を出し合ったりしながら、分かりやすく要約できているか振り返らせ、図書祭りで紹介することができるように進めていきたい。

5 単元の目標

中心となる語句や文を見付けながら文章を読み、書かれていることを要約することができる。

学習指導要領との関連:C(1)ウ (2)ア B(1)イ

言葉の特徴(1)カ

ウ ペア学習で相手の考えに質問や感想を持つ。

エ 友達の発表をよく聞いてよりよいものを選ぶ。

4 指導にあたって

本教材は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さを対比して、分かりやすく説明したものである。「和」と「洋」の対比構造に気付かせていき、それぞれのよさをしっかりと読み取らせ、また目的に応じて引用や要約をする力をつけていくことをねらいとしている。

第一次では、教材文を通読し、「くらしの和と洋ブック」を作るという学習課題を明確にし、学習の流れをつかませるようにしたい。教師が作成した、「くらしの和と洋のブック」のモデルを見せることで、引用を用いることの良さや引用の仕方を教える。

第二次では、「ヤドカリとイソギンチャク」の文章構成と比較し「くらしの中の和と洋」は伝えたいことを明確にするためにどんな順序で説明されているのかを見出しを見つけながら確認していく。「ヤドカリとイソギンチャク」は「問い」に対して「答え」を見つけることで意味段落に要約したり見出しをつけたりする学習をした。今回は、段落の中心文を見つけて引用し、引用した部分を要約していく学習となる。

本時では、中心文の見つけ方や要約のポイントをおさえながら、引用や要約をしていく学習となる。それぞれ部屋の使い方がまとめて書かれている文を見つける。そこが引用する部分となり、さらに引用した部分を「つまり」という接続する語句を使って要約していく。ワークシートに引用した部分と要約を書き込むことでブックを作成しやすくしていきたい。

第三次では、第二次までに身に付けてきた引用や要約の力をいかし、和と洋のシリーズの本から、書く内容の中心を明確にし、本からの情報を引用したり要約したりして、段落や接続する語句に気を付けながらブックを作成する。できあがったものを友達と読み合い適切な引用と要約になっているか振り返らせ、図書祭りで紹介することができるように進めていきたい。

5 単元の目標

何をどのように比べているかを読み取り、調べたことを目的に応じて引用したり要約したりすることができる。

学習指導要領との関連:C(1)ウ (2)ア B(1)イ

言葉の特徴(1)カ

6 評価規準

(1) 知識・技能

言葉の特徴(1)カ 文章を読み、主語と述語の関係、修飾語と被修飾語の関係を理解している。

(2) 思考・判断・表現

C(1)ウ 目的に応じて、中心となる語句や文に注目しながら読み、書かれている内容を要約している。

B(1)イ 本から大事な言葉や文を選び、内容のまとまりで段落を作ったり、文章の構成を考えたりしながら書いている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

進んで中心となる語句や文を見付け、学習の見通しを持ちながら教材文を読んだり、働く犬について調べたりしようとしている。

6 評価規準

(1) 知識・技能

言葉の特徴(1)カ 文章を読み、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。

(2) 思考・判断・表現

C(1)ウ 調べたことを紹介するために、文章の必要な部分を引用したり要約したりしている。

B(1)イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、本から引用したりして書いている。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

進んで文章の必要な部分を引用したり要約したりしながら、学習の見通しを持って教材文を読んだりブックを作ったりしようとしている。

<3年生> 12時間計画

次	時	学習活動	言語活動に関する留意点	評価規準(評価方法)
一	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・「はたらく犬クイズ」をする。 ・全文を音読して感想を書く。 ・学習計画を立てて学習の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「はたらく犬クイズ」を通して社会で活躍する犬たちがいることを知り興味を持って学習できるようにする。 手立て①<視点1> ・「はたらく犬リーフレット」の例を見て、学習課題を確認し、見通しを持って学習計画を立てる。 手立て①<視点1> ・「はたらく犬」についての本を準備して並行読書できるようにする。 手立て①<視点1> 	<p>【主】働く犬について関心を持ち、これからの学習に意欲を持って取り組もうとしている。</p> <p>(観察・発言・ワークシート)</p>
二	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文全体を「始め」「中」「終わり」のに3つのまとまりに分け、大まかな構成をつかむ。 ・中を4つに分けて、「小見出し」を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文を「始め」「中」「終わり」に分けたら、中を4つの意味段落に分け、説明文の構成をとらえさせる。「自然のかくし絵」と比較させる。 手立て② ・中の意味段落に「～の訓練」と小見出しをつけてそれぞれの訓練の仕方を読み取りまとめていくことが要約であることを確認し、「自然のかくし絵」との学習の違いをとらえさせたい。 手立て② 	<p>【思】教材文全体を「始め」「中」「終わり」に分けている。(発言・ワークシート)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「もうどう犬とは何か。」の答えを中心となる語句や文を見付けて、要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心となる語句について考えるために、中心になる言葉の見付け方のポイントを抑えながら進める。 手立て② ・「問い」が主部にあたり、要約したものが述部にあたることにより、要約しやすいようにする。 手立て② 	<p>【思】「もうどう犬とは何か」について中心となる語句や文を見付けて要約している。(発言・ワークシート)</p> <p>【知】語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているのかを理解している。(発言・ワークシート)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間のいうことにしたがう訓練とは何か。」の答えを中心となる語句や文を考えて要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文から「はたらく犬リーフレット」の盲導犬を作成していくことにより、要約することの意義づけを図っていく。 手立て② 	<p>【思】「人間のいうことにしたがう訓練とは何か」について中心となる語句や文を見付けて要約している。(発言・ワークシート)</p> <p>【知】語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているのかを理解している。(発言・ワークシート)</p>

	5 本 時	・「人を安全に導く訓練とは何か」の答えを中心となる語句や文を考えて要約する。		【思】「人を安全に導く訓練とは何か」について中心となる語句や文を見つけて要約している。 (発言・ワークシート) 【知】語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているのかを理解している。(発言・ワークシート)
	6	・「訓練に日数はどのくらいか。」の答えを中心となる語句や文を考えて要約する。		【思】「訓練の日数はどのくらいか。」について中心となる語句や文を見つけて要約している。 (発言・ワークシート) 【知】語句の役割や語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているのかを理解している。(発言・ワークシート)
三	1	・「はたらく犬リーフレット」を作るために、はたらく犬についての本から情報を集める。	・並行読書で読んできた本からどのはたらく犬についてのリーフレットを作るか決めさせる。 手立て③<視点2>	【主】進んで中心となる語句や文を見付け、今までの学習を想起しながら働く犬について調べようとしている。 (観察・ワークシート)
	2 3	・本から大事な言葉や文を選び、内容のまとまりごとにレイアウトを考えたりしながら書く。	・調べて分かったことを、「問い」と「答え」で書かせる部分を作らせるようにする。 手立て③<視点2> ・イラスト、見出し、文を書くところを考えてレイアウトする。 手立て③<視点2>	【思】本から大事な言葉や文を選び、内容のまとまりごとにレイアウトを考えたりしながら書いている。(観察・ワークシート)
	4	・リーフレットを読み合い、感想を交流する。	・リーフレットを読み合い、自分が作成したものと比べて質問や感想を言い合えるようにする。 手立て③<視点2>	【思】リーフレットを読み合い、内容を要約できているか読み取っている。(発言・ワークシート)

<4年生> 12時間計画

次	時	学習活動	言語事項に関する留意点	評価規準(評価方法)
一	1 ・ 2	・くらしの中にある和と洋についての知識を広げる。 ・全文を音読して感想を書く。 ・学習計画を立てて学習の見通しを持つ。	・和と洋のちがいを話し合い、和と洋を見つけたら、「和と洋発見コーナー」として掲示できるようにしておく。 ・「くらしの中の和と洋ブック」の例を見て、学習課題を確認し、見通しを持って学習計画を立てる。 手立て①<視点1> ・例から引用の意味や引用の仕方が分かるようにする。 手立て①<視点1> ・「和と洋」についての本を準備して並行読書できるようにする。 手立て①<視点1>	【主】生活の中の「和」と「洋」について関心を持ち、これからの学習に意欲を持って取り組もうとしている (観察・発言・ワークシート)
二	1 ・ 2	・教材文を意味段落に分け、文章構成をとらえ、まとまりごとに見出しを付ける。	・「ヤドカリとイソギンチャク」の文章構成と比較し筆者の主張を明確にするためにどんな順序で説明されているのかを見出しを付けながら確認する。 手立て② ・和と洋について対比構造で説明されていることに気付かせる。	【思】教材文の文章構成をとらえて、まとまりごとに見出しを付けている。 (発言・ワークシート) 【思】教材文の「和室」と「洋室」について対比さ

		<ul style="list-style-type: none"> ・「中」の過ごし方と使い方を説明している部分が「くらしの中の和と洋ブック」に取り上げられていることに気付かせる。 <p style="text-align: center;">手立て②</p>	<p>れている事柄に注意して読んでいる。 (発言・ワークシート)</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・話題提示と和室と洋室の大きな違いについて中心となる語句や文を見付けて要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「和」と「洋」の定義、「住」をとりあげて説明していることをとらえる。 ・和室と洋室を比べていること、和室と洋室の大きな違いについて読み取らせる。 <p style="text-align: center;">手立て②</p>	<p>【思】話題提示と和室と洋室の大きな違いについて中心となる語句や文を見付けて要約している。 (発言・ワークシート)</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・和室と洋室の過ごし方について、引用したり要約したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心文の見付け方のポイントをおさえながら進める。 <p style="text-align: center;">手立て②</p>	<p>【思】和室と洋室について、引用したり要約したりしている。 (発言・ワークシート)</p>
5		<ul style="list-style-type: none"> ・過ごし方と使い方についてまとめて書かれてある部分が中心文であり、引用する部分となることに気付かせる。 <p style="text-align: center;">手立て②</p>	<p>【知】文や文章などが相互にどのように関わるのかを理解し、文相互の関係や段落相互の関係などをつかんでいる。 (発言・ワークシート)</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・洋室と和室の使い方について、引用したり要約したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文から「くらしの和と洋ブック」を作成していくことにより、要約することの意義づけを図っていく。 <p style="text-align: center;">手立て②</p>	
本時			
三	<ul style="list-style-type: none"> 1 自分暮らしの中にもどのような「和」と「洋」があるかを考えて調べ、本を読んで情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書で読んできた本から何についての「くらしの和と洋ブック」を作成するのか決めさせる。 <p style="text-align: center;">手立て③<視点2></p>	<p>【主】進んで文章の必要な部分を引用したり要約したりしながら、今までの学習を想記してブックを作ろうとしている。 (観察・ワークシート)</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を引用したり要約したりしながら、文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の仕方、要約の仕方、接続語の使い方を確認しながらブックにまとめさせる。 <p style="text-align: center;">手立て③<視点2></p>	<p>【思】書く内容の中心を明確にし、本からの情報を引用したり要約したりしている。 (観察・ワークシート)</p>
3			
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらしの和と洋ブック」を読み合い、感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらしの和と洋ブック」を読み合い、自分が作成したものと比べて質問や感想を言い合えるようにする。 <p style="text-align: center;">手立て③<視点2></p>	<p>【思】「くらしの和と洋ブック」を読み合い、適切な引用と要約になっているか読み取っている。 (発言・ワークシート)</p>

8 本時の学習

(1) 目標

「人を安全に導く訓練とは何か。」の答えを中心となる語句や文を考えて要約する。

8 本時の学習

(1) 目標

洋室と和室の使い方について、引用したり要約したりすることができる。

(2) 本校の研究との関わり<遠野中学区の視点>

① 課題意識の持続の工夫・・「はたらく犬リーフレット」を作成することで課題を意識させる。(3年)

「くらしの和と洋ブック」を作成することで課題を意識させる。(4年) <遠野中学校区 視点1 >

② 学習活動の工夫・・(学び合い)ペア学習を取り入れる。(3年・4年)

(学びを表現)要約した文をワークシート書く。(3年)

引用や要約したことをワークシートに書く(4年)

③ 達成状況の把握の工夫・要約したものを黒板にはる。学習の振り返りシートの活用(3年)

中心文を黒板に示す。学習の振り返りシートを活用して把握に生かす。(4年)

<遠野中学校区 視点2 >

(3) 展開

第3学年			わたり計		第4学年		
指導上の留意点 【評価】	学習内容	段階	画		段階	学習内容	指導上の留意点 【評価】
・前時の学習を振り返り 本時も教材文から「は たらく犬リーフレット」 を作る学習であることを 確認する。 手立て①<視点1>	Ⅰ 前時の学習を早 期し、本時の課題 をつかむ。	導 入 5 分	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	導 入 5 分	Ⅰ 前時の学習を想 起し、本時の課題 をつかむ。	・前時の学習を振り返り 本時も教材文から、 「和と洋ブック」を作る 学習であることを確認 する。 手立て①<視点1>
人を安全にみちびく訓練とは何か要約しよう。					洋室と和室の使い方について引用して要約しよう。		

・要約する時のポイントや、友達の良かったところ、次の時間やリーフレット作りでがんばりたいことを振り返させる。 手立て③<視点2> ・次時は「もうどう犬の心構え」について学習することを確認する。	6 本時の学習を振り返る。 7 次時の学習の見通しを持つ。	終末 5分	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	終末 5分	6 本時の学習を振り返る。 7 次時の学習の見通しを持つ。	・要点や要約のポイントや、友達の良かったところ、次の時間やブック作りでがんばりたいことを振り返させる。 手立て③<視点2> ・次時からは、ブック作りの準備に入ることを確認する。
---	--------------------------------------	----------	---------------------------------	---------------------------------	----------	--------------------------------------	---

8 板書計画

<3年生>

「もうどう犬の訓練」 吉原 順平

課題 人を安全にみちびく訓練とは何か要約しよう。

⑨～⑫の教材文

中心となる言葉の見つけ方

- ① ×くわしい「たとえば」
- ② 訓練←できるようになる
- ③ 訓練←教えられること

要約の仕方

- ① 中心となる言葉を合わせて一つの文にする。(はぶく)
- ② 意味が伝わる文にする。

子ども達のボード7枚

Q 人を安全に導く訓練とは何か。

前まで止まったり、それをよけて進んだりすること、きけんな命令にはしたがわなないことを教えこまれることである。

まとめ

<4年生>

「くらしの中の和と洋」

課題 和室と洋室の使い方について引用して要約しよう。

くらしの中の和と洋ブック
和室と洋室、それぞれの使い方のよさをしようかいたします。
「くらしの中の和と洋という文章によると、洋室の良さについて」
「(〇ページ)と説明されています。
それに対して和室の良さについて」
「(〇ページ)と説明されています。
つまり、

⑪～⑬の教材文

中心となる文の見つけ方
・段落の中で、具体的なことがまとめて書かれている文。
要約の仕方

- ① 中心となる文を合わせて一つの文にする。(はぶく)
- ② 意味が伝わる文にする。
- ③ 分かりやすい言葉を、おきなう。

まとめ
つまり、洋室は使う目的が一つであり、和室は、一つの部屋を多目的に使える。